

特定非営利活動法人 資源リサイクルシステムセンターの事業紹介

令和4年1月24日（月）

特定非営利活動法人 資源リサイクルシステムセンター

統括コーディネーター 阿藤 崇浩

資源リサイクルシステムセンター（RSC）が提供する 環境調和型経営支援サービスの全体像

環境ビジネス創出支援事業

- 川上川下ビジネスマッチング、他地域連携ビジネスマッチング事業
- プロジェクトメイキング、市場調査、マーケティング、補助金獲得支援 etc

環境経営基盤構築支援事業

- ISO14001環境マネジメントシステム構築支援事業
- ISO9001品質マネジメントシステム構築支援事業
- LCA実施体制構築支援事業
- 化学物質管理体制構築支援事業
- 各種内部監査実施支援
- マテリアルフローコスト会計（MFCA）導入支援事業
- ① MFCAセミナー
- ② MFCA導入支援事業

etc

エコプロダクツ支援事業

- 環境ラベル（CFP、エコリーフ）算定・策定支援事業（環境ラベル算定研修等の実施）
- ライフサイクルアセスメント（LCA）研修事業
- ライフサイクルアセスメント（LCA）導入支援事業
- 化学物質規制動向セミナー
- SDGs対応支援
- カーボンオフセット、Jクレジット支援
- CDP対応支援、スコープ3対応支援
- 関西エコプロダクツフォーラム事務局
- 関西環境管理懇話会事務局 etc

その他の事業

- （一社）産業環境管理協会関西支部の運営

各種循環ビジネス人材育成支援事業

- 各種環境問題のテーマに沿った企業・組合・工業会向け研修、セミナーの実施
- 自治体職員、各種団体職員向けの環境問題に関する教育研修の実施 etc

近畿地域のサーキュラーエコノミー（CE）ビジネスネットワーク構築事業

経済産業省 令和3年度地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域産業デジタル化支援事業）

- 近畿地域のリサイクル企業とIT企業等が連携し、CE製品活用のためのプラットフォームを試験構築。実証（試験運用、顧客ヒアリング、事業性評価と改善）を行い、取引等のデジタル化（DX）により、活発なCE製品の資源循環がなされるモデルケースの創出、更には横展開を目指す。
- CE製品の資源循環へ向けた、事業支援、普及セミナー、新たな参画企業の発掘などを行う。

近畿地域のサーキュラーエコノミー(CE)ビジネスネットワーク構築事業



実施事項

(1) ビジネスモデル実証支援

・実証企業（2社）の支援

①（株）ペーパル

廃棄米を紙に混ぜた新素材のフードロスペーパー「komekami」の開発と販促ツール「環境負荷低減・脱炭素貢献量可視化アプリ」の開発

②浜田化学（株）

IoTやAIを活用した「廃棄物循環自動化システム」の開発

→分野別DX推進会議の「廃棄米・廃食品WG」及び「廃食用油WG」を設置

・エンドユーザー企業を中心としたCEループを構成する企業に参加してもらい、DXの活用を通じ、CE製品の高度化、CEループの高度化、脱炭素化への貢献を目指す

(2) ビジネスモデル実証予備群の発掘

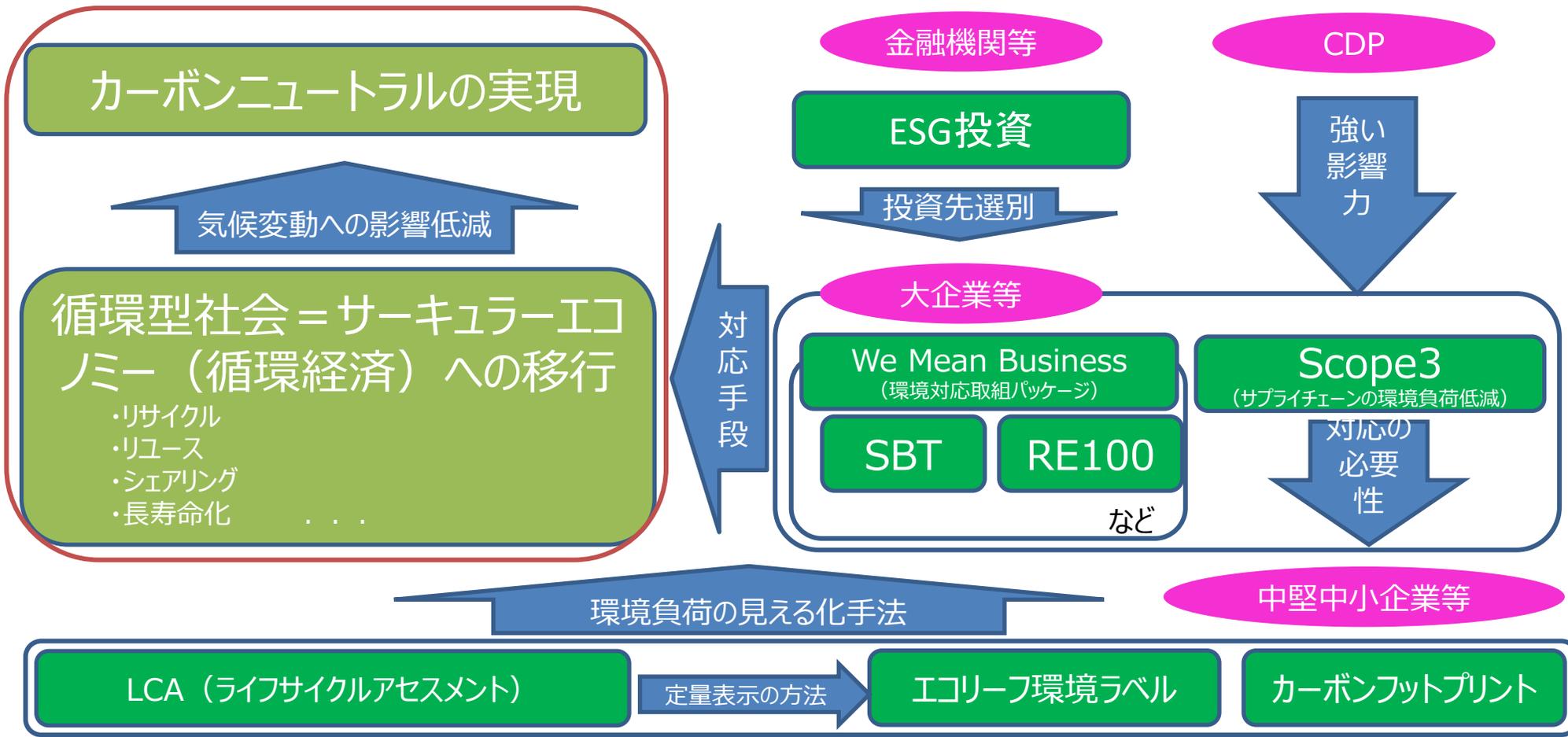
- ・産業支援機関の訪問、直接訪問による来年度以降のCEビジネスネットワーク参画企業の発掘を行う
- ・今年度中に来年度以降のテーマとして「廃繊維」「廃プラスチック」「廃ガラス」の3分野について分野別DX推進会議を設置し、CEループの形成（参画事業者の発掘）、課題抽出等を行う
- ・環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー（関東地域、九州地域、沖縄地域など）に参加し、他地域からも参画企業の発掘を行う

(3) 事例整理・普及

- ・今年度実証事業2件及び近畿地域の産業支援機関等から収集した廃棄物リサイクル分野におけるDX推進の代表的事例について、導入したDXの手法、導入上の問題点と今後の課題、DX導入によって得られた利点、DX手法や脱炭素貢献量可視化アプリの横展開の可能性等について、整理を行う。
- ・本事業に係るセミナーの開催。エコプロ展への出展

企業の取組む環境対策の相関まとめ（キーワード、実施主体、取組み内容）

SDGs（世界全体で共有する大きな目標、17のゴール）



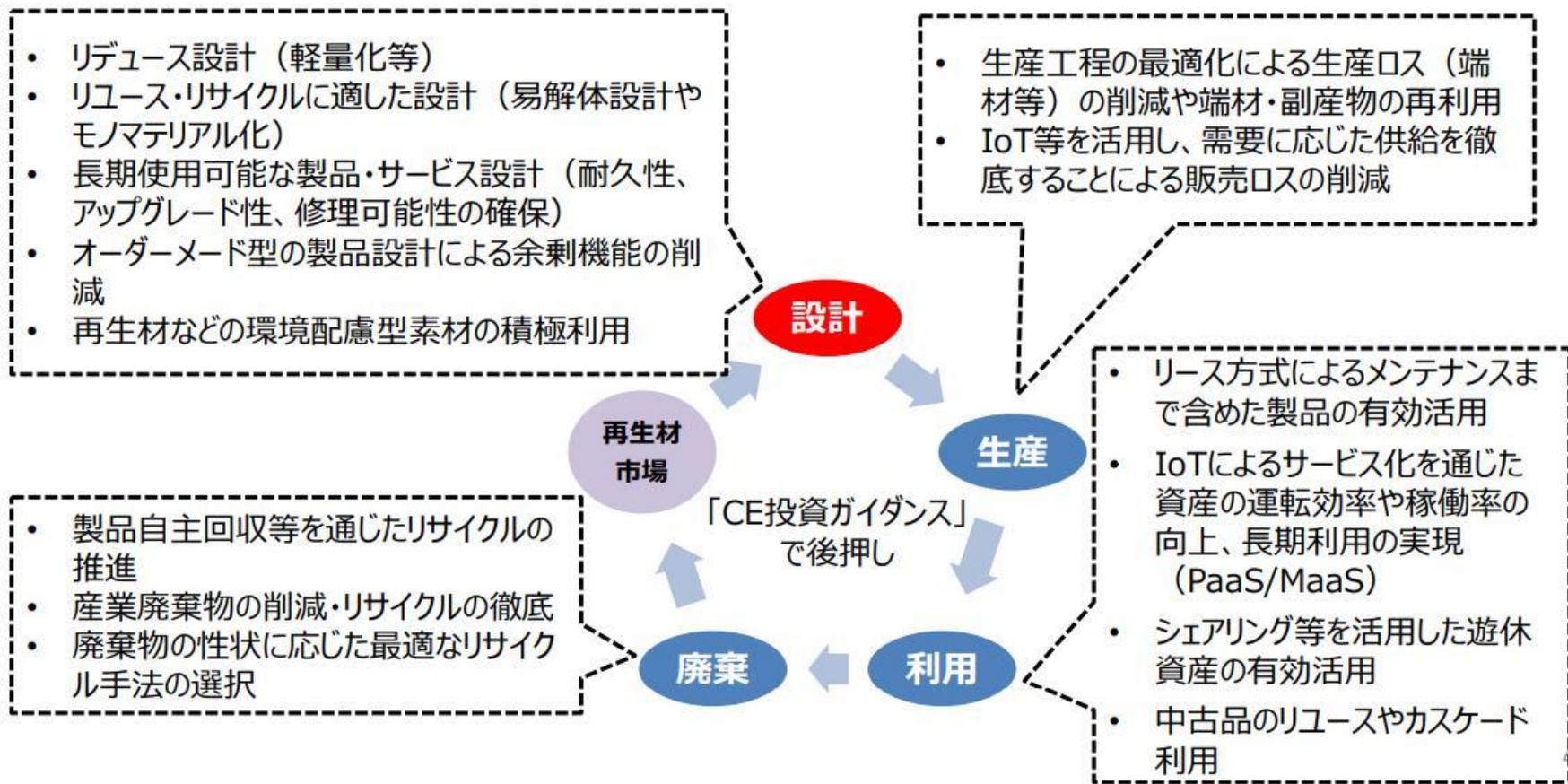
→これらのキーワードと手法を明確にする支援を行います

循環型社会における「新しいモノづくり」(1)

(参考) 循環性の高いビジネスモデルの例

V章

- 事業活動を実施するに当たり、設計・生産・利用・廃棄のあらゆる段階において、その業態に応じた循環型の取組を選択する必要。
- 特に動脈産業（製造・小売など）は、廃棄段階まで含めたライフサイクル全体を考慮した循環性の高い製品・ビジネスモデルをデザインしていく必要。 =SDGs⑩「作る責任、使う責任」



(経済産業省「循環経済ビジョン2020 概要版」より)

循環型社会における「新しいモノづくり」(2)

- 設計段階からカーボンニュートラル対応、サーキュラーエコノミーを意識したモノづくり
- ライフサイクル全体を意識したモノづくり、システムの作りこみ
- 製品、システムの環境負荷の見える化が可能となるLCA手法等の習得 → 特にサプライチェーン対応で



● カーボンニュートラル対応の例

- 植物由来素材、リサイクル・リユース可能な素材の使用 → 廃棄物処理工程の低減
- 素材の長寿命化の検討 → 素材・製品のライフサイクルの延長
- IoT, AI活用による効率化の推進 → CO2排出量の削減
- 自然エネルギーの活用 → エネルギー原単位の低減

など

● サーキュラーエコノミー対応の例

- リサイクル・リユースシステムの設計、活用 → まずはリサイクルループ（CEループ）の最適化を設計
- リサイクル材、リユース材の積極的な活用 → 新規投入材料の削減 → 材料の長寿命化
- 工程内ロス、不適合品の削減（廃棄、手直しetc） → 廃棄物の削減と省資源化
- ライフサイクル全般におけるロジスティクスの最適化 → CEループ全体における環境負荷の削減

など

→サーキュラーエコノミー、カーボンニュートラルに資する環境ビジネス支援を行います